

平成27年度病害虫発生予察特殊報第2号

平成28年3月1日
愛 知 県

- 1 病害虫名：メボウキべと病 (*Peronospora belbahrii*)
- 2 発生作物：メボウキ (バジル)
- 3 発生地域：東三河地域
- 4 発生確認の経過

平成27年3月に、東三河地域の施設栽培バジルで、葉が黄化したり、葉裏に黒から灰白色のかびを生じて株が枯れる被害が発生した(写真1、2、3)。

農業総合試験場でかびの形態を調べた結果、分生子柄は*Peronospora*属の特徴と一致した。また、分生子から得られたrDNA-ITS領域の塩基配列を解析したところ、既報告の*Peronospora belbahrii*と99.4%以上の相同性が認められたことから、*P. belbahrii*によるメボウキべと病と同定した。

本病害の愛知県内での発生は初めてである。国内では神奈川県、大分県、沖縄県などで発生が確認されている。

5 病徴

葉は黄化症状を示し、裏面に灰白色で霜状の菌体を生じる(写真2、3)。進展すると葉裏全体が黒から灰白色の菌体で覆われ、葉枯れ症状を呈して容易に落葉するようになり、やがて立ち枯れる。

6 病原菌と伝染

発病株及びその残さが伝染源となり、空気伝染により感染する。感染した葉では、分生子柄が気孔から外表に伸長し、5回から7回分岐した後、先端部に分生子を形成する(写真4)。海外では種子伝染することが報告されている。

寄主はこれまでのところシソ科に限られ、メボウキ属の複数種とコリウス、カワミドリ属の一種とされている。

7 防除対策

- (1) 発病株や落葉した発病葉等は伝染源となるため、ほ場外へ持ち出し、適切に処分する。
- (2) 多湿条件で発病が助長されるため、密植を避け、通風・排水・採光を良くする。施設栽培では換気を励行し、湿度が高くなるよう管理する。

8 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-62-0085 内線471



写真1 発病株の黄化症状



写真2 葉の黄化症状



写真3 葉裏の灰白色霜状の菌体



写真4 葉裏に密生した分生子柄と分生子